

2015最初のGIタイトルは誰の手に!?

王者武田を崩せるか!!

武田豊樹

SS

茨城 88期



平原康多

SS

埼玉 87期



神山雄一郎

SS

栃木 61期



深谷知広

SS

愛知 96期



金子貴志

S1

愛知 75期



浅井康太

SS

三重 90期



中川誠一郎

S1

熊本 85期



新田康仁

S1

静岡 74期



新田祐大

S1

福島 90期



岩津裕介

SS

岡山 87期



総展望

優勝争いの中心は年末のグランプリ2014を制した武田豊樹だろう。去年の静岡記念を制して、バンクとの相性も申し分ないが、時代を超えて比較する事は難しいが、平原康多・神山雄一郎の三人で組んだH26年のライオンは、競輪史に残る名ライオンの中でも最強のライオンと言っている。昨年11月の競輪祭は武田が前で先行して、番手平原が勝ち最後のグランプリ切符をスベリ込みで奪取。大一番のグランプリでは、平原が前で逃げた武田が番手まくりで初のグランプリ制覇。昨年はこの三人のラインを別線が切り崩せなかった。今年はその流れを別地区の選手も変えたいはず。怪我から復帰してぶっつけ本番で迎えたグランプリでは、8、9割の

今年最初のG1戦、そして四回転未満にギア比が規制される最初のG1戦でもある。ギアの規制によって競輪競走が変わる事が予想される。単調になりがちだったレースはより多彩な戦いが活きるようになり面白さと迫力が増す。不用意な落車が減るのもファンには朗報。大ギア時代には絶滅の危機に瀕していた後攻めからの抑え先行の数も増え、先行テクニクやマークテクニクも武器になるだけに、レース予想の要素が増えて、より面白くなる事に期待したい。



村上義弘

SS

京都 73期



村上博幸

SS

京都 86期

状態にまで戻したとは言え力及ばずだった深谷知広、この全日本選抜競輪は完全な状態で臨むはずで、力勝負で関東勢に挑む。師匠の金子貴志、何でもできる浅井康太との連係で中部に流れを引き戻す構え。
村上義弘を中心に結束する近畿勢は層が厚い。弟の村上博幸、安定感ある藤木裕之と川村晃司、一発がある松岡健介らといったタイトルホルダーになっても不思議はない実力者がそろっている。他の地区にとっては羨ましいほどの次世代のスター候補の機動型が育っているのも特徴的で、村上兄の練習方法やメンタルの持っていていき方など、村上イズムの浸透も大きな影響を与えているのかもしれない。

昨年一人もグランプリに送り込めなかった北日本勢だが、ワールドクラスのスピードを誇る新田祐大、鋭いまくりの佐藤友和、初タイトルも夢ではない実力を持つ自在型の菊地圭尚、大ギア旋風を巻き起こした山崎芳仁もギア規制で沈む男ではない。これだけの強豪がそろった北日本勢からも目が離せない。
南関東も千葉の機動型石井秀治、根田空史や自力基本にさばるレースもできる神奈川の桐山敬太郎の頑張りで、大勢力に風穴を開ける可能性もある。地元の新田康仁も数々の記念タイトルG1は手にしているが、あと一歩届かないG1タイトルへの執念を燃やすはず。展開やメンバーによって変幻自在に戦法を使い分けて総力戦で戦う。

やや小粒に見える中四国勢からは、グランプリ2014に出場した岩津祐介が参戦予定。先手ラインを追って差し、まくりを狙うか好位を強気に狙うか、もう一つの選択肢はスピードがある機動型がいる九州勢との連係を模索するかどうか。そうする事で大きな勢力にする事も可能になる。
その九州にはナショナルチームで競技との両立がよい方に出ている中川誠一郎、強烈な力マシ・まくりはスピードに乗ってしまえば別線の追撃を許さないポテンシャルを秘める。オリンピック銀メダリストの井上昌己もかつては競技との両立で競輪でも結果を出した選手で、落車によるケガに泣かされてきたが近況はスピードある機動力が戻って上昇気配。追い込み陣にも差し脚鋭い大塚健一郎やギア規制で小野俊之のさばきもラインの武器になるかもしれない。そこに中四国勢が加わり西日本ライオンを形成するのなら、他の地区にとっては脅威になるだろう。
全国から集まる強豪が相手だが、昨年末からのいい流れのまま武田を中心に関東勢が優勝争いをリードしていくのか、それとも別線が待ったをかけるのか。激しい優勝争いを制して、今年最初のG1タイトルの栄冠を手にするのは誰だ。

